

3 創刊の辞

9 角井誠 ..... 真実と扮装  
ジャン・ルノワールと1920年代フランス映画の演技理論

17 篠原学 ..... 顔・まなざし・テキスト  
ミラン・クンデラにおける「読むこと」

浴女と無定形の布 ..... 横山由季子 ..... 24  
ボナールの水浴の裸婦像(1920-1940)

キュビズム文学と第一次世界大戦下のパリ文学界 ..... 松井裕美 ..... 26  
象徴主義とシュルレアリスムの狭間で

自由に自由を捨ててはならない ..... 石川学 ..... 28  
「バレス裁判」をめぐる

星は瞬いているか ..... 塚島真実 ..... 30  
『ランボー全集』プレイヤッド第三版をめぐる

32 冨成信 ..... ボードレール『1859年のサロン』における宗教画論  
ルグロ、ゴーティエをめぐる

39 白瀬小百合 ..... 「新キリスト教」の行方  
サン＝シモンの宗教思想と後継者による継承をめぐる

フランスにおける国家補助金制度とジャーナリズム ..... 中村督 ..... 46

ハイチ地震と文学 ..... 大辻都 ..... 48

映画的創造の不純さ ..... 角井誠 ..... 50  
アラン・ベルガラの『不良少女モニカ』によせて

スタッドのある風景IV ..... 澤田哲生 ..... 52  
マティアス・ルー『スパイクを履いたソクラテス』を読む

54 尾玉剛士 ..... 医療費抑制の比較政治経済学  
日本とフランスを事例として

62 八幡恵一 ..... メルロ＝ポンティにおける思考と言語  
「沈黙のコギト」をめぐる

	詩人もまた「万人によって作られる」のだとしたら プレイヤッド新版『ロートレアモン全集』の場合	三枝大修	70
	真実らしさの不実な追求 ジャン＝レオン・ジェローム回顧展	富成信	72
	父になれぬ息子 ムールード・マムリ『忘れられた丘』について	茨木博史	74
	翻訳論としての対照言語学 視点表現の問題	守田貴弘	76
78	澤田哲生	性の脱中心化と身体を中心化 モーリス・メルロ＝ポンティ『知覚の現象学』における性理論の再考察	
85	渡名喜庸哲	「仏語圏ユダヤ人知識人会議」をめぐる 現代フランスにおける「ユダヤ性」の活力と隘路	
	書物の宮殿を訪ねる	篠原学	92
	過程と個体 ドゥルーズ『差異と反復』の問題圏	河口丈志	94
	構築という方法 アレクサンデル・シュネル『フッサールと構築的現象学の基礎』	八幡恵一	96
	真実と虚構 ジャック・デリダのモーリス・ブランショ論『滞留』に寄せて	山岡利矢子	98
100	根本昭英	「実存の場所」としての文学 J.-P. サルトルにおける文学的コミュニケーションの問題	
107	守田貴弘	移動表現における様態動詞の分類	